

地域に根ざした施設を目指す

触れ合って

絆の杜

支えあって

第36号 平成25年3月15日

発行所

社会福祉法人 光道園

鯖江 福井県鯖江市和田町9-1-1
TEL (0778) 62 - 1234 (代)
FAX (0778) 62 - 0890

朝日 福井県丹生郡越前町朝日22-7-1
TEL (0778) 34 - 1220 (代)
FAX (0778) 34 - 2099



「雲丹にいくらに穴子！」と大きな声で注文するとお寿司屋さんが威勢のいい声で「喜んで！」と返事が返ってきます。
(高齢福祉一課 新年会 関連記事は4ページ)

主な内容

生活のしやすさを目指して…………… P2

朝日福寿会様・朝日地区民生委員様… P3

笑顔あふれた新年会…………… P4

「これからは…」そして、「これからも…」… P5

巳年だけに…「うれし楽し美味しい新年会」… P6

そり遊び、下がることない、家族愛♥… P7

平成24年度 光道園文化祭 … P8～9

のぞみ工房 陶華星…………… P9

四・季・お・り・お・り…………… P10

寄贈・慰問…………… P11

手作り工房 フ・クレール…………… P11

笑顔がいっぱい…………… P12

さばえグリーンカーテンコンテスト入賞… P12

「生活のしやすさを目指して」

「コミュニケーションと工夫」

ライフトレーニングセンター 施設長 山崎 ふみ子

平成二十四年四月に異動でライフトレーニングセンターの施設長に就任しました。ここに来るまでは、十数年在宅高齢者の相談やケアマネジャーとして在宅生活を支援してきました。身体障害者施設への異動は思いがけないことでしたが、二十数年ぶりにスターホームの面々にお会いして、懐かしさと「お互いに年を重ねたなあ」と実感しました。元気に跳びまわっていた方が転ぶことが多くなっていたり、部屋に閉じこもっていたり、でも、「みんなすごいなあ」と思うことがあります。それは、平成十五年に石田上町からこの和田町へ移転してきて、大きく環境が変わったことをしっかり受け入れ、部屋やトイレの場所も覚え自分たちの生活をしていくのです。

これまでであった垣根を取り払い、個別のニーズに対する支援の必要性に着目する仕組み、障害程度区分認定が導入されました。その後、利用者が負担の見直しや、事業者経営基盤の強化、グループホーム等の整備促進等が検討され、平成二十四年六月、「障害者総合支援法」が成立、また、平成二十四年十月には「障害者虐待防止法」の施行、そして障害者差別禁止法案へ向けての動きがあります。

制度が改正される中で入居者の生活はどのように変化しただろう。制度的には、生活介護と施設入所支援ということで日中活動と夜間を区別したことになりました。より日中活動の充実を図り、生産活動や創作活動、レクリエーション等一人ひとりにあった生活支援をというねらいがあります。（決して今までの支援があいまいであったわけではありません。）制度は地域移行推進派です。では、ライフトレーニングセンターの人たちはどんな形で制度の目指す方向にいけるのでしょうか。ライフトレーニングセンターには視力障害+肢体不自由、

視力障害+知的障害、視力障害+精神障害等、さまざまな障害を重ねもっています。自分の思いを言葉で表現するのが難しかったり、聞きなれない声に心が驚かされ、突飛な行動に出たりします。でも私たちは初代理事長である、故中道益平氏の築き上げた理念と、光道園の学習に深くかわって下さった重複障害教育研究所の故中島昭美先生の教えに励まされながら、利用者とかかわってききました。「働く光道園」「学ぶ光道園」「一人ひとりを大事にする」として、「工夫する教育」「考える教育」それは今もいろんな人たちの支援を受けながら引き継がれています。

ライフトレーニングセンターが重度の盲重複者の生活の場である以上、そこがよりよい生活の場であればなりません。私たちは利用者とのかわりを大事に考えています。言葉にならない表現をたくさん投げかけてくれる、それを私たちは読み取り共有していくことで、「コミュニケーション」が広がるのです。また、課題学習を通して、その人がどのような概念をもっているのか、どのようにしたらその人の持っている能力を引き出せるのか取り組んでいます。

また、先にも実感したこととして述べましたが、年を重ねることで体力の低下、特に移動能力の低下は生活の楽しみや意欲を低下させます。それは障害があるなし関係ありません。

ん。そういった意味では日頃の生活習慣や健康管理も重要な支援です。特に痛みの訴えや不調の訴えを上手く表現できない人にとって、私たち支援員や看護師、栄養士など、いつも見ている人たちが、「いつもと違う」を見つけることはとても大事なことです。

最近、「専門職」という言葉をよく聞きます。専門とはひとつの事柄を研究し受け持つことですが、盲重複の専門ということは視力障害、知的、精神、身体等それぞれの事を理解したうえで、なおかつそれらがあわせもったらどうなるかということがわかる事かと思えます。光道園の研修には全職員対象のものや、外部研修、内部研修等がありますが、光道園は盲重複の専門施設です。私たちはますます自己研鑽しながら、利用者支援に携わって行きたいと思えます。

利用者の笑顔は私達のエネルギーです。心をぶつけ合い、泣き笑いより添えるそんな関係を築き上げ、利用者の生活がその人らしく輝けるように!!



朝日福寿会連合会の皆様との交歓会

平成二十四年十一月二十一日(水)午後、光道園朝日交流ホールにおいて、朝日福寿会連合会の皆様と光道園利用者との交歓会が行われました。年に一度の交歓会は、十五年以上つづいており、利用者の皆様は、とても楽しみにしている行事の一つです。

童謡を一緒に歌ったりカラオケや大正琴の演奏、吟舞やハーモニカ演奏など演目は多彩で、会場は朝日福寿会の皆様や利用者の皆様で満員となりました。また、利用者の佐々木秀子さんは、以前から大正琴を教えて頂いている木下先生と牧野先生と一緒に「夫婦船」などを演奏され、これまでの練習成果をご披露されました。

さらに演芸慰問だけではなく、朝日福寿会連合会の皆様には、毎年たくさんのご寄贈を頂いております。今回は約千八百本以上のタオルや石鹸を寄贈して頂きました。本当にありがとうございました。朝日福寿会の皆様の温かいお気持ちにより利用者の皆様の笑顔がますます増えていくことを期待しております。(総務二課 津波祐美)



ご寄贈のようす



大正琴演奏のようす (左) 牧野先生 (中) 佐々木秀子さん (右) 木下先生



朝日地区民生委員の

皆様による餅つき会

毎年の恒例となっている越前町朝日地区民生委員の皆様による餅つきが平成二十四年十一月十四日にライトホープセンターにて行われました。

朝からもち米の蒸す香り、餅をつく音がホールに響きました。

あんこ、きなこ、おろしの三種類のお餅を利用者のみなさんが「おいしい」と言って食べられ、その後は朝日地区民生委員の方と餅つき体験をされました。「ヨイショ、ヨイショ」と皆さんのかけ声もあり、とても盛り上がりました。おいしく、楽しいひとときをありがとうございました。

(総務二課 佐々木真弓)



あんこ餅、きなこ餅、おろし餅
おいし〜い!



ヨイショ〜
ヨイショ〜
餅つき体験

笑顔あふれた新年会

光が丘ハウス（高齢福祉一課） 北岡 忍

「みなさん、改めまして明けましておめでとうございませう」係の挨拶に、利用者の方が笑顔いっぱい返事を返してくださいました。平二十五年一月二十二日、新年会が大きな声と共にスタートしました。昨年より感染症の流行で実施が危ぶまれてい

ましたが、外出する機会の少ない利用者の方に美味しいお寿司を食べていただきたいと言う願いが叶い実施することができました。例年一・四階で海鮮アトムの職人さんがお寿司を握っていましたが、今年は短時間ではありますが二・三階でも握ってもらいました。利用者の方が「雲丹にくらに穴子！」と大きな声で注文するとお寿司屋さんが威勢のいい声で「喜んで！」と返事が返ってきます。自分が頼んだお寿司が目の前で次々と握られ並んでいくところを見て、「うわあ。美味そうやな」と言う声があちこちのテーブルで聞かれました。また食の細い最高齢百十歳になられるHさんには「長寿スペシャルメニュー」と題して、紅白の貝材にいくら・錦糸卵をふんだんに使った特製ちらし寿司を作ってもらいました。Hさん本人に見ていただくと「ほ。きれいやな」と言う言葉が聞かれ、少しずつ口に運び召し上がっていました。他のフロアーでも数の子が大人気で、あっとい間に無くなりYさんが太巻きを切らずに二本注文し恵方巻のように一人豪快に食べていました。お寿司と一緒に日本酒やノンアルコール

ルビール・ジュースを飲み、お腹いっぱいになったところで職員と利用者の方による大カラオケ大会が開かれました。若いころ聞いていた歌を熱唱し、美空ひばりが橋幸夫かというくらい上手な(?)歌声に聴き惚れました。

日頃出来たてのお寿司を食べる機会が少ない利用者の方より「また来年も頼むね」と言われ、毎年の新年会を楽しみにされている気持ちが強く感じられました。利用者の方の笑顔が見られて、私達職員も幸せな気持ちになった一日でした。



「これからは…。」そして、「これからも…。」

～辻下さんと越前町の成人式に参加して～

ライトホープセンター（援護二課） 吉田正樹

去る、1月13日に越前陶芸村文化交流会館において開催された、越前町の成人式に援護二課の利用者、辻下憲吾さんが参加されました。また、同じ援護二課で職員として働く寺敷水希さんも成人を迎えられ、同じ会場と一緒に成人式に参加していました。式典は30分程で、壇上には越前町長をはじめとして教育関係者などが臨席されており、非常に厳かな雰囲気の中で執り行われました。

そんな中で、式典の最初から最後まで真面目に話を聞いていた辻下さんは、周りの雰囲気に怖気づくことなく堂々としていて、立派な様子でした。最後は、職員の寺敷さんとその友人と一緒に記念写真をパシャリと一枚。美しい女性二人に挟まれ、初めての(?)両手に花。そんな感じで成人式を過ごしてきました。

本人に式典に参加した感想を聞いたところ、「参加できて良かった。」「成人の誓いで前に出た人が言っていたことは、今の僕にはできへん。難しいわ〜。」と言ってきました。でも、

そんな辻下さんも援護二課の新年会の時には、成人としての抱負を「これからは、周りの人の事も考えて、迷惑をかけずに頑張ります。」とはっきりと大きな声で語っていました。

辻下さんの抱負を聞いて、私の頭に「これまで過ごした2年の歳月とライトホープセンターの雰囲気が、辻下さんを大人に向けての成長を後押ししてくれたのだ」という実感がよぎりました。地元の盲学校を卒業してすぐにライトホープセンターに入所された辻下さん。入所されたばかりの頃は、周囲の利用者や職員に自分の思いをなかなか理解してもらえず、トラブルになる事もしばしば。でも、今は自分の思いをはっきりと伝え、他人の気持ちを慮って行動をすることができるようになってきています。『自立訓練（生活訓練）』では、新しい作業を覚えること、外出時に白杖を使っての単独歩行ができるようになることを頑張っています。

辻下さんが表明してくれた「これからは…」と言った大人としての抱負。私たち職員は、そんな辻下さんの思いをしっかりと受け止め、これからの社会の中で活動していくことができるよう



ように支えていかなければならないのだという事も感じました。光道園の職員としてだけではなく、同じ障がいを持つ仲間としても、辻下さんの「これからは…」を「これからも…」としてずっと辻下さんが辻下さんらしく、共に成長していけるように頑張らないといけない、私にとってもそんな新たな決意を促してくれた二回目の成人式となりました。

辻下さん、成人おめでとうございます。これからも、職員として、また同じ障がいを持つ仲間として、一緒に長い長い道のりを一歩一歩踏みしめていきましょう。



「うれし楽し美味し新年会」

ライフトレーニングセンター（療護一課）

青山里佳子

今年も、きらら館では、恒例行事となった「新年会」を開催しました。利用者の皆さんの中には、年末頃から、新年会の話が出るなど、一年のスタートを切る上では、なくてはならない行事となっています。でもこの冬は、感染症の影響もあり、新年会の開催も危がまれましたが、利用者の皆さんの日頃の行いと健康な身体のおかげで、例年通り、開催することができました。

当日は、希望者の方々が、越前町にある劔神社へ初詣に行き、それぞれに参拝をしました。参拝後は、御守りを購入する方やおみくじを引いて、一年の運気を確かめた方など、皆さん初詣を楽しみました。

そして、初詣に行ったメンバーが戻り、いよいよ新年会のスタート!! テーブルには、美味しそうなオードブルに力二ご飯やサンドイッチ、温かいお吸い物など盛りだくさん!!そして、美味しい食事には欠かせないお酒もまた種類・量ともに盛りだくさん!!

皆さん、本当に美味しそうに食べられていました。「美味しい!」という声や表情を見ると、食べるということ、大げさかもしれませんが、人



生最大の幸せなのだと感じました。そう感じた理由は、私自身が好物である「むつの照り焼き」を美味しく食べることが出来たことに幸せを感じたからでもあります。(次に「むつの照り焼き」を食べられるのは、一年後でしょうか。)

皆さんのお腹が満足してきた頃に、今年の抱負を職員も含めて全員に言ってもらいました。一番多か

拝啓 きらら館利用者の皆さんへ

今年の新年会はどうでしたか?皆さんのアルバムに入れてもらえるような楽しい内容でしたか?これからは、もっと盛り上がる楽しい催し物にご招待させていただきます。今年も、よろしくお祈りします!!

きらら館職員一同より



った抱負が「頑張ります!!」です。同じ「頑張ります!!」にもそれぞれに目標や意味があります。私たち職員は、みなさんの「頑張ります」を今年も後押しできるように私たちが自身が「頑張ります!!」と身を引き締めたそんな一場面でした。

その後は皆さんのお待ちかね、カラオケタイムの始まりです。利用者の皆さんの十八番に、職員の『AKB48』と、きらら館が『NHKホール』?と?と思うくらい紅白に負けにくいほどの熱気に包まれました。

一皮むけたそんな新年会でした...

そり遊び、下がることない、家族愛♥

～365に Let's Go!!～

ライフトレーニングセンター（療護一課 たねのいえ） 岩瀬 心

2013年冬、今年もやってきました。そう！銀色のシーズンです。たねのいえでは毎年恒例行事として今庄365スキー場へそり遊びに出掛けています。今年は2月14日に出掛けました。

当日、体調不良者が多く例年よりも少ない人数でした。毎年、雪が降る中の行事でしたが今年は晴天でとても天気の良い中、無事、今庄へ行くことができました。

今庄365スキー場へ向かう道中の車内は大盛り上がり！ご家族同士の楽しい会話や今日の天気について話されたりと利用者、職員を交えて会話があちらからこちらへと飛び交いました。光道園を10時20分に出発してスキー場に到着したのが11時。予定していた時間よりも30分近く早く到着しました。例年ではそり遊びの時に集合写真を撮った事がなかったのですが、今年は初めて集合写真を撮る事ができました。天気も良く皆さん素敵な笑顔で、いい写真が撮れました。

さあ、記念写真も撮ったところで次は昼食です！みんなで2階へと移動し、事前に注文してあった食事を食べました。カツカレー、牛丼、かつ丼、ラーメン……

普段食べてもおいしいメニューですが、スキー場で食べると2倍のおいしさを感じました！！さあお昼ご飯も食べ、お腹もいっぱいになったところでひと眠りと……（笑）

とはいきません！そう！今から本番です！いざ！ゲレンデへ！

外へ出ればそこは太陽がサンサンと輝き、目の前は一面白銀の世界が広がっていました。これはまさにというくらいのそり遊び日和でした。毎年参加してくださっているご家族が、「今年は天気が良くて本当にいいわ」や「こんな晴れた日は今までで初めて」と笑顔で話されました。これまでのそり遊びは前にも言いましたが、天気が悪く寒い日が多かったので、一人の利用者さんが滑る回数は2～3回と少なかったのですが、今回は、室内に戻ることなく滑っては上り、また滑っては上るを何回も行うことが出来て、皆さんとても満足されていました。毎年、体調不良で思うように滑れなかった利用者さんも、今回はたくさん滑る事ができ、とても満足されていました。また、ご家族と一緒に滑った利用者さんもニコニコと笑顔を浮かべ、とても楽しそうでした。私はその光景を見て、こう思いました。この天気、そしてこの皆さんの笑顔。ゲレンデにロマンスの神様が現れたんだと。（笑）

そり遊びも終わり、休憩場へと戻り、そこでご家族と一緒に参加している利用者さんからお母さん達に、チョコレートのプレゼントがありました。そうこの日は2月14日バレンタインデー。日頃のありがとうを伝える事が出来ました。これぞまさしく家族愛♥



たねのいえでは年間通して色々な行事を計画しています。各行事には出来るだけご家族の方も一緒に参加して頂いています。そして毎回ご家族の方から、喜びの声も聞かせて頂いています。これからも利用者家族の家族愛を大切に、笑顔、愛溢れる行事を計画していこうと思います。

平成24年度 光道園文化祭

～魅せよう！ 55 (個々) の煌き～

文化祭実行委員 成瀬裕崇

今年の光道園文化祭は朝日事業所をメインとして、平成24年11月5日(水)の光道園利用者のみなさまの作品展示から始まりました。作品は、生け花・竹細工・玉のれん・書画などその他多様でした。

文化祭に先立ちお茶クラブの実演が、平成24年11月7日(水)光が丘ハウス1階ホールで行われ、お茶クラブのみなさんは綺麗な着物を着て、ボランティアの方達と一緒に抹茶と和菓子を来場者にお出しして日頃のお稽古の成果を披露されていました。

各課発表や各クラブ発表での実演は、8日(木)～9日(金)にライトホープセンター2階作業場ステージにおいて1日半をかけて賑やかに開催されました。

そして翌週には作品展示物が鯖江事業所NNホールへ移動し、18日(日)まで展示という日程でした。

開催前にあたり、9月には実行委員会が立ち上がりました。今年は光道園創立55周年にあたる年ということで、その話し合いの時も「区切りの年だから何かしたいね。」という意見があがりました。そこでこれまでの光道園の歴史を振り返りながら、何をしていくか整理していきました。利用者の作品や舞台での実演での姿は毎年が勝負であり、創立55周年だから頑張るというものではありません。

そこで、作品内容や実演内容を工夫するのではなく、飾りや喫茶の内容を工夫しようという結論にいたりました。飾り付けはライトホープセンター職員が中心となり、写真のようなすばらしい飾り付けとなり、文化祭を一層盛り上げることにつながりました。

また、喫茶店の方はおやつメニューを増やすことに決めました。創立55周年なので55種類とまではいきませんが、例年2種類のところを「5」にちなんで「スイートポテト」、「チョコブラウニー」、「抹茶カップ」、「チーズケーキ」、「シフォンケーキ」の5種類を準備させていただきました。いつもより選択肢が増え、利用者の方も選ぶ時に少し迷っていたようですが、自分の選んだ好きなものが食べられることでご満足されていました。中でも一番人気は「チーズケーキ」で200人以上の方が選ばれました。

一方、各クラブ実演では、利用者の方の熱い演技や歌声に加え、外部から『チャレンジ音楽塾』の方が参加していただき、素敵な音楽をご披露していただきました。利用者の作品展示においては出来るだけ多くの作品をご覧いただけるようにパネルや椅子等の配置を工夫したことで利用者の方の努力の結晶を思う存分ご覧いただけたものと思います。

今年は創立55周年記念ということでご家族やボランティア等の皆様の多大なご協力があり無事終えることが出来ました。5年後の創立60周年も視野に入れながら次回の準備をすすめていきたいと思っております。本当にありがとうございました。



ミックバラス



太鼓クラブ



三味線演奏



カラオケクラブ



民謡おどり



ピアノクラブ



チャレンジ音楽塾の皆様



ギタークラブ



琴演奏



詩吟クラブ



のぞみ工房 陶華星

桃の節句も過ぎ、日ごと春めいてまいりました。昨年も、開運干支「夢巳」の製作及び販売に関しまして、ご支援いただき、誠にありがとうございました。

さて、新年に入り「陶華星」では、五月の陶芸祭りに向けての製品づくりに励んでおります。春風と共に、陶芸村にお越しいただき、作品を見ていただければ幸いです。皆様に喜んでいただける作品作りに精進して参りますので、今後共宜しくお願い申し上げます。

〒916-8585 鯖江市和田町9-1-1 光道園ライトワークセンター内「陶華星」

TEL : 0778-62-8103 FAX : 0778-62-3775



四・季・お・り・お・り

デイサービスセンター さざんかホール（地域生活支援課）

木 田 芳 美

毎月開催している行事週間では、季節を感じるとともに、時には子ども心に返ったりと賑やかに楽しい時間を過ごしています。行事の由来や風習など、人生経験を積んできた利用者の皆さんに教わる事が多くあります。今回は下半期に行った行事について紹介します。

10月 菊人形外出



菊の美しさと香りに包まれて「やっぱり秋は菊やな」「私も作ってたよ」と話が弾みます。平清盛らの立派な菊人形が並ぶ見流し館では、思わず歴史の話に花が咲きました。またOSK歌劇団の芝居・歌・踊りを満喫し、「きれいやなあ」「良かった」と拍手が鳴りやみません。



11月 秋を感じる会

やっぱり食欲の秋です。お風呂上りに「ちょっと見て来る」と焼きいもの焼き加減を確認する一場面もありました。「大きいのをちょうだい」「なんて甘いの」とあちこちで焼きいものを称賛する声があがり、どの顔もあまりのおいしさにほころんでいました。どんぐり・松ぼっくり・イチョウやもみじの葉を使った創作活動も行い、完成した作品はご自宅の玄関や部屋に飾られています。

12月 クリスマス会

サンタクロースの衣装を着て、一気にクリスマスモードに包まれます。ハンドベル演奏でクリスマスソングを歌うと、サンタクロースに扮した利用者がプレゼントを抱えて登場しました。「メリークリスマス」と声高らかにプレゼントが渡されると、「いつもあげるばかりやで、うれしい」「ありがとう、来年も来てね」。



1月 新年会

おとそ(甘酒)をいただき、「明けましておめでとうございます」。新年にふさわしい縁起の良い太鼓演奏・獅子舞踊りに拍手喝采です。「今年の運勢は？」とおみくじを読む目は真剣です。「お年玉、どんだけあげた?」「お雑煮はおいしかった」と、家庭でのお正月の過ごし方にも花が咲きました。恒例のカルタとりや福笑いに、お正月気分は最高潮です。

2月 節分会

赤鬼・青鬼の登場に、「鬼は外」と豆(新聞を丸めて皆さんが作った物)を投げる手に力が入ります。さざんか神社にお参りし、甘納豆を食べながら、家族みんなの無病息災、そして世界平和を祈願しました。



これからもご期待ください。

— 感謝いたします! —

タオルと石鹸寄贈

平成二十四年十二月十七日(月)
南条地区婦人福祉協議会の方が
来園され、タオルと石鹸をたく
さん寄贈していただきました。



クリスマスケーキ寄贈

平成二十四年十二月二十四日
(月)株式会社 法美社様から利用者
の皆様へ多くのケーキをプレゼ
ントしていただきました。



聖歌隊の慰問

平成二十四年十二月二十四日
(月)武生キリスト協会の聖歌隊の
皆様が来園され、光道園内の各
施設で聖歌を歌ってくださいま
した。またみかんもいただきました。



みかん寄贈

平成二十四年十二月二十九日
(土)豊駐在所ふれあい協議会の方
が来園され、みかん6箱を寄贈
していただきました。



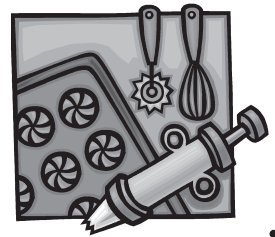
手作り工房 フ・クレール

おなかも
ニコニコ
ふしゅ〜る

“おいしい たのしい うれしい” 手づくり工房 ふしゅ〜る

国産小麦粉、県内産こしひかり米粉、北海道産よつばバターを使って
おいしいパン、クッキーを作っています。

4月1日には越前町朝日(旧西田中駅近く)にお店がOPENします。
みなさまのおこしをおまちいたしております。



平成二十四年十二月

平成二十五年二月採用職員

新任職員の紹介

★氏名 ①趣味や特技など
②好きな言葉 ③印象的な映画

総務二課

★山田喜代美

- ①音楽鑑賞・電話を早く取ること
- ②「凡事徹底」「スピード・信用・気配り」
- ③「グリーンマイル」

光が丘ワークセンター

セルブ二課

★谷崎英生

- ①ドライブ ②「ありがとう」
- ③「ユージュアル・サスペクツ」

★長岡洋子

- ①「コンサート鑑賞」 ②「継続は力なり」
- ③「最強のふたり」

ライトホープセンター

援護二課

★中谷優子

- ①買い物 ②「一期一会」
- ③「スターウォーズシリーズ」

第一・第二光が丘ハウス

高齢福祉一課

★井上三智子

- ①ショッピング ②「感謝」
- ③「最近は何もありません」

第三光が丘ハウス

高齢福祉二課

★石原美千代

- ①卓球・点訳 ②「苦あれば楽あり」
- ③「踊る大捜査線 THE FINAL」

笑顔が いっぱい!

文化祭編



「第三回さばえグリーンカーテンコンテスト」入賞

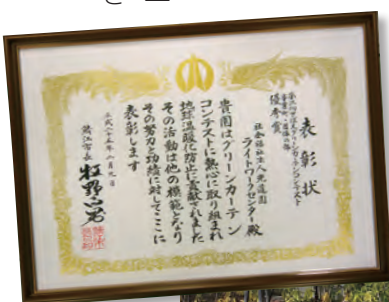
平成二十五年二月九日(土)

鯖江市鸕鷀会館で行われた「こどもエコクラブ活動交流会」において、事業所・団体の部で優秀賞として表彰されました。

今年も光道園ライトワークセンターの作業場南側でゴーヤを栽培しました。ゴーヤのツルが作業場の屋根まで届き、ゴーヤと作業場との間の通路は、長さ約四十メートルの緑のトンネルという感じとなりました。作業場で活動される方々の日除けとして大いに役立つのではないのでしょうか。

さらに、たくさんの実が収穫できて光道園の名課へ分けたり、またライトワークセンター利用者の方々はゴーヤジュースやゴーヤチャンプルとして提供させていただきました。

これからも夏場の省エネを推進するとともに、地球温暖化防止に取り組んでいきたいと思えます。



社会福祉法人 光道園の施設

社会福祉法人 光道園 法人本部	鯖江市和田町 9-1-1	養護老人ホーム・第一光が丘ハウス	丹生郡越前町朝日 22-7-1
障害者支援施設・ライトワークセンター	鯖江市和田町 9-1-1	養護盲老人ホーム・第二光が丘ハウス	丹生郡越前町朝日 22-7-1
障害者支援施設・光が丘ワークセンター	丹生郡越前町朝日 22-2-2	特別養護老人ホーム・第三光が丘ハウス	丹生郡越前町朝日 22-7-1
障害者支援施設・ライトホープセンター	丹生郡越前町朝日 22-3-1	通所介護事業所・デイサービスセンター・さざんかホール	丹生郡越前町朝日 22-7-1
障害者支援施設・ライフレニングセンター	鯖江市和田町 9-1-1	訪問介護事業所・ヘルパーステーションさざんか	丹生郡越前町朝日 22-7-1
生活介護・たねのいえ	鯖江市和田町 9-1-1	居宅介護支援事業所・さざんかホール	丹生郡越前町朝日 22-7-1
		越前町障害者支援センター・さざんか	丹生郡越前町朝日 22-7-1
		障害者支援センター・こうどうえん	鯖江市和田町 9-1-1